

日本洋装界の歴史は日本洋装協会の歴史



一般社団法人 日本洋装協会

事務局 〒113-0034

東京都文京区湯島4-8-3-307

TEL (03)3814-7023

FAX (03)3814-7023

発行人 伊賀 玲子

編集人 高橋 里子

黒澤 句子

※NDAモード通信は年3回発行



NDA公式
You Tube

発行所 一般社団法人 日本洋装協会

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと、心よりお喜び申し上げます。昨年もお力添えを賜り、当協会としての諸活動を無事に進めることができました。日頃からのご支援に、改めて深く感謝申し上げます。当協会は来年、創立八十周年という節目を迎えます。それに向け、本年を更なる飛躍の年と位置づけ、会員拡大を目標に、より多くの方々へ洋裁の魅力を伝えてまいります。講習会やセミナーの充実、情報発信を通じ、洋裁文化を次世代へ継



新年のご挨拶

(一社)日本洋装協会
会長 伊賀 玲子

承していきたいと考えております。四月十八日(土)には、「第七回NDAクチュールコレクション」を開催いたします。当協会独自の事業として、生徒の皆様と共に創りあげる、華やかで楽しいショーとなるよう準備を進めております。また、夏には東京都主催の「ものづくり・匠の技の祭典2026」、秋には「全日本洋装技能コンクール・ファッションショー」が予定されております。本年が皆様にとって実り多き一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。引き続き当協会の活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



新年のご挨拶

(一社)日本洋装協会
名誉会長 山東 昭子

新年あけましておめでとうございます。昨年を振り返りますと、異常気象や熊の出没など、不安を覚える出来事が相次ぎ、また、降雪により日々の暮らしに影響を受けるなど、自然の力の大きさと向き合う一年でありました。私たちは改めて、自然と共に生きていくことを強く実感した年であったように思います。そのような中であって、洋裁は暮らしを彩り、心を豊かにする手仕事の文化として、変わらず私たちの生活に寄り添ってまいりました。この大切な洋裁文化を、次の世代へ、より多くの方々へと広げていっていただきたい

いと願っております。この業界において、最も長い伝統を誇る日本洋装協会は、伝統技術の継承と共に、革新的な発想を大切に、多くの技術者を育ててこられました。皆様の洗練された素晴らしいデザインと技術が、今こそ活かされる時であると信じております。本年は午年。「勢い良く前に進む」「跳ね上がる運氣」と言われています。この勢いに乗り、本年も協会の皆様にとりまして、実り多く素晴らしい一年になりますよう祈念し、年頭のご挨拶といたします。

二〇二六年
一般社団法人日本洋装協会
新年祝賀会開催

令和八年一月十六日(金)、ホテルグランドヒル市ヶ谷において、ご来賓二十名を含む参加者六十五名が集い、華やかに新年祝賀会が開催されました。司会は石原洋子常務理事、黒澤句子理事の両名が務め、会は和やかに進行いたしました。はじめに伊賀玲子会長より新年の挨拶が述べられ、その後、ご来賓を代表して山東昭子名誉会長、(一社)全国技能士会連合会 会長 大関東支夫氏、東京都職業能力開発協会 専務理事 加藤英典氏よりご祝辞を賜り、続いてご来賓の紹介が行われました。引き続き、令和七年度功労者表彰が行われ、全技連マイスター認定者をはじめ、一級技能検定合格者、認定校生徒永年在籍者が表彰されました。受章者を代表し、鈴木和枝副理事長が謝辞を述べられました。続いて、白瀬一郎顧問による乾杯のご発声を皮切りに祝宴が始まり、素敵な景品が当たるビンゴゲームなどで会場は盛り上がり、新年度のスタートを祝いました。



「黄綬褒章の受章」

酒井 啓子
(石川県)

令和七年、このたび「黄綬褒章」を受章するという、身に余る榮譽を賜りました。伝達式は、ホテルニューオータニザ・メイン一階「芙蓉の間」にて執り行われ、厚生労働大臣より褒章を拝受いたしました。その後、皇居宮殿内「豊明殿」にて天皇陛下に拝謁し、お言葉を賜りましたことは、生涯忘れ得ぬ感激となりました。

洋裁を始めて六十七年。洋裁学校の助手や洋装店のデザイナーを務めながら、二十三歳で洋裁教室を設立いたしました。以来、洋裁一筋に歩んできましたが、石川県卓越技能賞「百万石の名工」、卓越技能賞「現代の名工」に続き、このような大きな章を頂戴できましたのも、ひとえにご推薦くださいました(一社)日本洋装協会の諸先生方、そして長きにわたり私を支えてくださった皆様のご指導とご支援の賜物と、深く感謝申し上げます。

平成十七年に入会のお誘いをいただいていた、皆様方と交流を深め、切磋琢磨させていただいた日々が、私の技術と心を育ててくれました。このご恩は、今後、後継者育成に全力で取り組むことで、微力ながら日本洋装協会の発展、ならびに業界の未来にお返しできるよう、努力していく所存です。ありがとうございます。

「全技連マイスター」認定

鈴木 和枝
(茨城県)

このたび、当協会のご推薦により、全技連マイスターの認定を受け賜りましたこと、心より感謝申し上げます。また、十月二十九日には、第43回全技連大会に参加させていただきました。

大会では、さまざまな職種の技能士が一堂に会し、大変有意義なお話を伺うことができました。どの職種においても人材不足の声が多く聞かれ、後進の育成が重要であること、そしてそのためにも技能士の役割が欠かせないことを、改めて実感いたしました。

若者の「ものづくり離れ」も深刻であり、今後どのように人材を育てていくかが重要な課題であると感じております。

「ものづくりは日本の強みであり、ものづくり大国・日本」を支えるのは技能士である」という、全技連・大関会長のお言葉に大きな責任を感じるとともに、少しでも、ものづくりの技術継承と人材育成に貢献できるよう、今後精進してまいります。

「全技連マイスター」認定

高橋 里子
(埼玉県)

このたび、日本洋装協会のご推薦により「全技連マイスター」に認定いただきましたこと、心より感謝申し上げます。これまで温かくご指導くださった洋装協会の先生方に、厚く御礼申し上げます。

服づくりに携わる中で、技能検定をきっかけに洋装協会とご縁をいただき、以来、検定への挑戦や日本洋裁技能コンクールへの参加を通して、洋裁技術と丁寧に向き合う時間を重ねてまいりました。学びを深めるほどに、技術の奥深さと、服づくりの楽しさをあらためて実感しております。協会では多くの先生方のもとで基礎から応用までをご指導いただき、技術そのものだけでなく、洋裁に向き合う姿勢や、技術を大切に受け継いでいくことの意味を学ばせていただきました。こうした積み重ねが、今回の認定につながったものと受け止めております。今後は、この認定を励みとし、これまでに培ってきた学びを次の世代へとつなげながら、洋裁の魅力を実践に伝えていけるよう努めてまいります。支えてくださった先生方や仲間への感謝を忘れず、技術者として一歩一歩、研鑽を重ねてまいりたいと思っております。引き続き、ご指導を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

「全技連マイスター」認定

峰 早百合
(長崎県)

この度は、全技連マイスターの認定を頂き心から感謝致します。専門的な学校に通った事もなく、オーダーの経験もない私が、子育てと介護を終えて、趣味で続けてきた洋裁をもっと本格的に学びたいと思っていました。そんな時、横浜から長崎に帰って来られた馬場明子先生に出会いました。技能士と言うものを初めて知り、高い技術は勿論、洋裁を通して、人と繋がる事と学ぶ楽しさを教えて頂きました。また、日本洋装協会を通して様々な講習会やコンクール等に参加する事で、地方では経験出来ない学びが多くありました。私が「判らない。」と言うと、徹底的に教えて下さる洋装協会の先生方に感謝致します。洋裁技術の奥深さに触れて、増々ものづくりの楽しさを感じています。

昨年よりマイスターとして、高校生のドレス製作指導に関わらせて頂いています。一人ひとりの希望に合わせた指導は、とても大変ですが、若い人達に、ものづくりの大切さや楽しさを伝えていきたいと思っております。

「繊維あれこれ・それぞれの特性」1

繊維の種類 繊維(服地)になる繊維は、天然繊維と化学繊維に大別される。それぞれ特性に相違はあるが、全ての繊維は羊毛(ウール)を頂点にして織物になってきた。その相違点を比較する。

天然繊維 動物系と植物系と鉱物系に分類される。服地に多用される動物系は、羊を主に山羊(カシミア・モヘア)と駱駝(ビキユーナ・グアナコ)、さらに蚕(絹)がある。植物系には木綿と麻(ラミー・リネン)があり、近年は蜀黍(もろこし)から抽出される繊維がある。鉱物系には、ガラス・金属・炭素系・岩石等から作られるものがあり、主に防災用途に供されている。この鉱物繊維は化学繊維(人造繊維)に含まれることもある。

羊(ウール) 羊毛は「ウール」と呼ばれ、その他の動物の毛は「ヘア」と称される。(山羊・駱駝・兎等)。羊毛は長毛種、短毛種、山岳高原種、メリノ種に分けられる。メリノ種は人工交配で作られられた羊であり、このウールは高品質と言われている。その毛質は16〜22ミクロンの極細で25cm平方に3〜4万本の毛が密生している。主産地はオーストラリア、ニュージーランドで、特に牧草地に銅分があるタスマニア産は縮れ(クリンプ、スケール)が強く、最上位にランクされる。羊毛の特性は縮絨性がある、体積の60%の空気を含み、寒暖の温度差に対応出来、16%の水分を有し、自重の35%まで水分の保持が可能である。吸湿と撥水に高く、汚濁に強く、クランプ作用がありシワになりにくい。風合いが良く滑らかで染色性に適し、難燃性に高く堅牢である。羊毛の持つ弾力性と柔軟性は縫製時の立体造形作業(くせとり)を可能にする熱可塑性処理に最適な素材である。

マイナス面では、水洗いすると収縮することが多く、アルカリ性(石鹼等)に弱い。この特徴を利用してフェルト(ソフト帽子)が作られる。放置すると虫害にさらされる。一日着用したら、二日間休ませることが必要である。耐久性では、高級なものほど摩擦に弱く、擦り切れやすい。

織り糸 ウールは紡績の工程で次のように分類される。梳毛糸(くしけずる工程を施した太さが均一のもの)ウールステッド、サージ、ギャバジン等、毛羽のない服地の織り糸になる。紡毛糸(くしけずる工程をしない膨らんだもの)ツイード、フラノ、オーバー等の服地の織り糸になる。梳毛織物は平行に糸が締まり、密であり表面に凹凸がなく、糸目・織り目がはっきりしていて光沢があり丈夫である。紡毛織物は、ふっくらしていて柔らかめで、布面は毛羽で覆われていて厚目の服地が多い。

毛織糸に合成繊維(化繊)を混用したものは混紡織物と呼ぶ。異なった織り糸を撚り合わせて織ったもの(絹等)を交織織物という。織物に対応する抵抗性は、染色を基に、洗濯・汗・摩擦・日光等の堅牢度が求められている。

洗毛 羊毛紡績する時には、洗毛という原毛を洗う工程がある。洗毛工程で抽出されるラノリンは化粧品原料になる。口紅やおしろいが作られ、ラノリンはビルの主原料に精製されている。羊は衣類の素材だけではなく、一万年以前から人と関わりを持ってきた。毛・皮・肉・骨の全てが利用されている。古代中国では、漢字の発達に伴って美しいの「美」広大の「洋」美味しいものの「羹」人道「義」等「羊」に関する文字が60以上もある。引用文献は最終号に記載

(以下 次号はカシミアから) (文責・白瀬 一郎)

「フオーアップ」技術向上セミナー報告

ドレス工房スタジオHANNA 小林さな子(茨城県)

令和7年6月29日、7月20日、9月14日の全3回、日本洋装協会主催「フオーアップ」技術向上セミナー第2回が、都立城東職業能力開発センター足立校にて開催されました。講習内容は①パターン(講師 伊藤千春、リビ裕子(検定部長))、②縫製(講師 佐藤順子(理事)、白井富美子)の2コースに分かれて3回にわたり講習会が行われました。

私は、パターンの講習会に参加し、人の骨格と筋肉の関係から基本となる上着のパターン作成・応用まで学びました。私は趣味として洋裁を始め、基礎知識が全く無い中で、今回初めてセミナーと言う形で洋裁を学びました。パターンの方やデザイナーの方が、どのように洋服づくりに取り組んでいるのかを垣間見ることが出来て、洋裁の奥深さや難しさを改めて実感しました。専門用語が飛び交う中、頭の中に?がいつぱい浮かびながらも、講師の先生方に付きつきりで教えて頂き、無事に3回の講習を終えることが出来ました。

今後、学んだことが実践でも活用出来るよう、更に学びを深めていきたいと思えます。



2025秋セミナー パンツ原型からパターン設計 シルエット作図のポイント

山田真理子(埼玉都)

10月4日(土)東京洋服会館ジェントリーホールにて矢野弘子先生による「パンツのパターンセミナー」が開催され、65名が参加しました。矢野先生は企業・学校・団体でパターン教育に携わり、日本モデリスト協会の運営委員としても活躍されているほか、インスタグラムでも専門的な技術を積極的に発信されており、多くの支持を集めています。

今回のセミナーには、洋裁教室の生徒5名とともに参加しました。平面図と3Dを併用した講義は非常に分かりやすく、ユーモアを交えた説明で終始惹きつけられました。体型の問題だと思いついていた点が、実は作図に原因があると分かり、改めてパターン設計の奥深さを実感しました。

休憩時間には、参加者が先生を囲みひとつひとつの質問に丁寧に答えてくださる姿が印象的でした。豊富な現場経験に基づく解説は説得力があり、知識だけでなく、作り手の視点まで引き上げていただいたように感じます。

セミナー後は、学んだことをすぐに活かしたい気持ちが高まり、技術への意欲を高める貴重な機会となりました。



第63回

技能五輪全国大会を終えて

中林 理香 (東京都)

今年も愛知県にて開催された「第63回技能五輪全国大会」の洋裁職種には、全国から12名の若き技術者が出場しました。競技は10月18日・19日の2日間にわたり実施され、制限時間10時間以内でジャケットを完成させる高度な内容です。

採点は、シルエット、身頃、襟、袖付けの縫製技術、糸くず、汚れの管理、安全衛生、作業態度、最終仕上げに至るまで、多岐にわたる項目で総合的に行われました。国際大会の基準に近づけるため、襟のデザインは当日の抽選で発表され、スタンドカラーが課題として選ばれました。選手自らがパターンを作成し制作に臨む、実践性の高い方式が採用されています。

本年は、金賞1名(岡山県)、銀賞1名(岡山県)、銅賞3名(岡山県、北海道・山形県)、敢闘賞1名(広島県)が受賞し、会場は若い技術者たちの熱意と活気にあふれていました。

未来のものづくりを担う若者たちの挑戦が、日本の確かな技術の継承と、さらなる発展につながることを期待しております。



支部だより

「福岡から世界へ」

技能の伝承と業界の発展に尽力する

洋裁のスペシャリスト

福岡県支部長 野田部寛之

香蘭ファッションデザイン専門学校で26年間、婦人・子供服製造の業務に従事し、培った知識と技能を活かして後進の指導にあたっています。

全技連マイスター、ものづくりマイスター、職業訓練指導員の資格を取得後、技能五輪全国大会の技術指導を担当し、4度の入賞に貢献しました。

2022年に開催された全日本洋装技能コンクールでは、1800年代の型紙を現代的に昇華させた作品を発表し入賞。

2024年には海外コレクションの縫製も手掛けるなど、業界の技術向上に尽力しています。

現在は福岡県支部の支部長として、技能検定の運営や会員向けの新しいパターンメイキングの提供を通じて、洋裁業界の発展に貢献しています。長年の経験を活かし、次世代の育成と業界全体の活性化に取り組んでいます。



地区だより 東北地区

「第2回洋裁スキルアップ

宮城大会&親子ものづくり体験」

高橋 菜実 (宮城県)

令和7年8月10日、仙台国際センターにて「第2回洋裁スキルアップ宮城大会」が開催されました。技能検定1級・2級の保持者が参加し、制限時間5時間の中で、それぞれの課題であるジャケット、ワンピースの製作に挑みました。

隔年開催されるグランプリさながら、沢山のギャラリーの中で作業をする事は、私にとって初めての経験でした。日々の取り組みが出る場で、慣れない環境の中、平常心ではいられませんでした。自分の未熟さを感じながらも、また成長していきたいと思えた貴重な時間でした。

大会中には大正琴の演奏もあり、選手や大勢の人の熱気が混ざる会場を和やかな雰囲気にしてくれました。爽やかな音色の後押しもある中、それぞれが力を出し切り、無事終了いたしました。

また、ものづくり体験ではフェルトでペンケースとハートの飾りを作りました。小学校3年生の女の子は玉留めが出来るようになり、嬉しそうにしていました。

当日は足元も悪い中、遠方よりいらして下さった先生方や一般の方々のご来場にご感謝申し上げます。このような機会を大切にしながら、会員一同、励んでいきたいと思っております。



「NDAニュース」

http://nihonyousou.or.jp/

黄綬褒章受章 酒井 啓子 (石川県)

令和7年12月14日(日)

東北地区作品発表会ファッションショー 仙台ロイヤルパークホテル

令和8年1月7日(水)

紳士服合同新年会 ホテルグランドヒル市ヶ谷(白樺の間)

令和8年1月16日(金)

(一社)日本洋装協会新年祝賀会 ホテルグランドヒル市ヶ谷(瑠璃西の間)

令和8年2月27日(金)〜3月2日(月)

技能グランプリ大会2026 インテックス大阪

令和8年3月8日(日)〜9日(月)

東技連異業種交流研修会 KKRホテル熱海

令和8年3月15日(日)

春のセミナー 教育部 ミシンのメンテナンス(仮)

令和8年4月18日(土)

第7回 NDAクチュールコレクション ホテルグランドヒル市ヶ谷(瑠璃の間) 2026

第7回

NDAクチュールコレクション

2026のおしらせ

会員と生徒による三年に一度のファッションショーです。たくさんのご参加をお待ち申し上げます。

令和8年4月18日(土)

ホテルグランドヒル市ヶ谷(瑠璃の間)